

令和7年度第1回四日市市立図書館協議会 議事録

1. 日時 令和7年8月21日(木) 午後2時～午後3時40分
2. 場所 四日市市立図書館 2階 視聴覚ホール
3. 出席者 岡田委員、加納委員、北村委員、竹内委員、竹下委員、柘植委員、中井委員、
福永委員、六代委員
図書館：谷本館長、川崎副館長兼奉仕係長、浅野管理係長、生川管理係員
4. 欠席者 なし
5. 傍聴者 1名
6. 資料 資料1 令和7年度四日市市立図書館概要
資料2 移動図書館車の寄贈について
資料3 新図書館等拠点施設整備の進捗状況について

図書館協議会条例第4条により、会長に加納委員、副会長に福永委員を選任した。
以後、会長を議長とし議事を進めた。

(1) 令和6年度図書館事業報告、令和7年度図書館事業方針について

事務局より、資料1を用いて説明を行った。また、資料2を用いて、移動図書館車の寄贈について報告した。

委員：自動車文庫の寄贈は本当にありがたい話だと思う。子育て支援施設への派遣を検討しているとのことだが、載せていく約500冊の本はどのように選ぶのか。

事務局：子育て支援施設では、子どもの本だけでなく、保護者の方が自分で読むような本も載せたい。また、学童保育所に行くことになれば小学生向けの本を多く載せ替えるなど、対象者を見て変えていく予定である。

委員：個人登録者数が、令和4年度から増加傾向にあるが、電子図書館の導入が原因なのか。また、電子では、こういう本は入っていない、というのがあれば教えてほしい。15ページで紹介されているような貸出が多かった本、たくさん予約が入っている人気の本は、なかなか順番が回ってこないと思うので、そんなときに代わりになるような本がすすめられるとよいと思う。

事務局：個人登録者については、5年前のシステム更新時に、3年間の有効期限を初めて設けた。更新手続きをせず有効期限が切れた人は個人登録者数に含まないため、それまで

の数から激減していったが、現在は実数に近い形で落ち着いている。令和5年10月の電子図書館導入後、電子図書館を使いたいので貸出券を作りきた、更新手続きにきた、という人が一定数いたので、多少なりとも、増加原因のひとつになっていると思う。

次に電子書籍についてだが、個人で購入する電子書籍ではベストセラー作家なども販売されているが、全てが図書館用に販売されているわけではなく、もっと限られた中から選書をしている。許諾が得られていないものもまだまだ多い。

委員：何もかも電子になって紙の本はいらない、と言う人もいるが、紙の本はやっぱり残っていくと思うので、両方を使ってもらえるとよい。

委員：ボランティアの立場からは、子ども読書ネットワーク協議会の研修会が、今回も前回もすごく良かった。その際に、もっと活動したい、という若い方に声をかけられたのだが、せっかくそういう方が参加していてもなかなかつながっていかない。「活動したい方は、図書館で活動している会につなぐこともできるので、図書館に言ってください」など、研修会のときに一言声をかけるだけでもよいので、もう少し仲立ちを図書館でしてもらえるとよい。

事務局：実際に活動している方だけでなく、興味がある方なら参加できる研修会となっているので、ご意見を参考にしたい。なお、読み聞かせボランティアに興味があるののだがどうしたらよいか、と相談をうけることがある。当館では、読み聞かせや語りなど、多くの方に活動いただいているので、ご希望を伺いつつ、実際に図書館で活動されている日に見学することをすすめたり、代表の方につないだりしている。

委員：ボランティアセンターの方でも相談をいただくが、図書館でそのような取り組みがあることを理解したので、活動の場所として具体的にお伝えできると思った。職場体験学習について質問だが、受け入れる人数は決まっているのか。

事務局：図書館側の都合で、2名までとしている。本の整理や利用者対応だけでなく、赤ちゃんへの読み聞かせを司書と一緒にやったりしている。たくさんの学校から申し込みをいただくが、重複して日程があわないので、かなりの数をお断りしている。

委員：中学校で職場体験をする時期が2回ぐらいあり、ほとんどの学校が11月から12月に集中するため、調整してもらっている状況である。

委員：ICタグの導入について。ICタグを入れた蔵書はどの範囲か。市立だけなのか。また、今後のサービス展開として、予約本コーナーを作り、利用者が自分で貸出できるように整備していく予定があるのかどうか。

事務局：ICタグは、市立図書館、移動図書館、あさけプラザ図書館、楠交流会館図書室の全てが対象である。四日市公害と環境未来館のみ、お互いの図書を貸したり返却したりする、というやり取りがないので入れていない。和綴本など一部を除いて、ICタグは入っている。予約本コーナーはぜひ導入したいのだが、スペースの都合上、今の図書館では難しいと考えている。予約本の貸出は多いので、設置できれば非常に有用だと思う。

委員：予約本が多いのであれば、セルフ化により職員の負担が減ると思うのでぜひ新図書

館では導入されたい。東京などでは、1 人の利用者が、居住先、勤務先など、いろいろな図書館を利用し、各図書館で同じ本に予約を入れ、1 番早く用意できたところで借りる、他の図書館の予約もキャンセルしない、といったケースがあると聞く。ものすごい数の予約がその本にかかってはキャンセルされていく、という状況らしい。四日市ではそこまではないだろうが、機械的にできることは機械でやったらよいと思うので、今後新しくなるときには考えてほしい。

委員：自動車文庫の運休について。猛暑により、運休が増えるのではという心配がある。運休の基準は何かあるのか。今後、何か対応策はあるのか。

事務局：運休の基準については、どこから、明確に、こうしなさい、と決められているものはないので、図書館で決めている。午前、午後の運行について、それぞれ決めた時間に、暑さ指数の予報を確認し、何度以上だったら運休にする、という判断を複数人でしている。昨年度更新した自動車文庫の車両は、アイドリングできる場所であれば、本を選ぶスペースも冷房が効くようになったが、利用者が選ぶ本の棚は外にもある。また、暑い中、巡回場所まで歩いてくる利用者を思うと、やっぱりある程度の暑さで中止にせざるを得ないと考えている。元々、8 月は暑さを理由に運行していなかったが、7 月も同様になってきた。自動車文庫がある図書館はどこも同じ悩みを持っているようで、四日市はどういう基準で止めているのか、止めた場合はどうするのか、という問い合わせをこの夏だけで複数の図書館から受けた。対応としては、現状、決定打はない状況である。

委員：令和 6 年度事業報告および令和 7 年度事業方針についての質疑は以上とする。

(2)新図書館等拠点施設整備の進捗状況について

事務局より、資料3(8/4 の議員説明会資料)を用いて、新図書館等拠点施設に関する進捗状況を報告した。

委員：館の運営は必ず市の直営と思っていて大丈夫か。

事務局：複合施設となるため、建物自体の管理をどうするのか、図書館部分の運営をどうするのか、といった部分は、主にソフト面の話になってくるので、そこまでの話はまだ全然できていない。図書館側の思いとしては、司書が果たす役割は非常に大きいと考えており、図書館の核の部分はあくまで直営を堅持したいという意向を度々伝えている。

委員：よろしく願いたい。

委員：普通借地で当初設定借地期間 50 年ということだが、50 年経ってやっぱり返してくださいと言われたらどうなるのか。

事務局：スターアイランド跡地で検討していたときは定期借地という話であったが、今回は普通借地であり、この土地の上に建物を建てると借地借家法にかかるため、むしろ借主の方が若干立場が強いということになる。おそらく、こちらが続けて使いたいということであれば応じていただけたと考えている。

委員：他の自治体でも、借地に建てるというのは多いのか。

事務局：他の自治体でもあるし、四日市市内の公共施設についても、学校の下の土地が借地になっているところが何校かある。

委員：停滞していたのが急に動き出してちょっとびっくりしている。これから要求水準書を作ったりすすめていくと思うが、図書館も主体的に入って決定していったほしい。全国を見ていると、なかなかそういう立場にならない可能性が高いが、半分以上を図書館が占めており、ちゃんとした図書館を作らないといけないので、要求水準書を作るときや、それ以外でも、しっかり図書館として、こういうことをやりたいと言った方がいい。

今、非常に建設費が高騰しており、この 13,150 m²では多分できないと思っている。建設コストが上がった分、市が積み上げればよいが、そんな自治体はほとんどなく、結局は面積を減らせ、という話になってくる。そのときに応分に減らすのではなく、図書館は最低でもこれだけは必要、ということを言い続けたいといけない。ぜひ議論の場に図書館はなるべく口を出す。要求水準書も作って終わりじゃなく、管理運営もこれからだと思うが、図書館が果たさないといけないところは多いと思うので、ぜひ、図書館の存在意義をしっかり出していったほしい。

あと、デザインビルド方式(設計施工一括発注方式)はやめた方がいいと思う。どんどん建設コストが上がっていく今、手が上がらず不調になっている。行政としてはコストを確定したいからやりたがるが、もう無理だからと、違約金を払って降りる会社もある。この場で言っても仕方がないが、実際には従来方式でやった方がよいのでは。地元のゼネコンに聞くと興味があるように言うとは思いますが、建設工事が始まるまでに、建設資材とかコストとかどんどん上がっていくわけで、自分たちで首を絞めることになる。手が上がらなければ、また半年とか遅れて普通のやり方に戻す、という話になっていくので、これはちょっと賭けだと思う。また、金額が決まっているため、ここをちょっと変更してほしいとかはきかない。基本設計も 3 月からと書いてあるが契約のことなど考えると年明けとか年内になるのか。

事務局：補正予算が認められれば、ということになる。

委員：13,150 m²の基本設計のプロポーザルをこの期間でやるのは結構大変。基本設計を先にやり、実施設計と工事は一括で違う人たちに、ということだがちょっと難しいように思う。

委員：地元でも、建築費の高騰が原因で大きな工事が進んでいない。どんどん物価が上がっているんで、この予算に対しても大丈夫か、お釈迦になってしまわないかととても心配である。

委員：心配ばかりしていても仕方がないが、図書館として守るべきもの、したいことを、これまでにきちんと積み上げてきたと思うので、ちゃんとそれを守りたいということをきっちり主張されたい。面積を減らすことでしか、お金に合わせられなくなるので、そのときにやっぱり図書館としてはこれだけは必要である、例えば、2 割カットする必要があったときに、一様に 2 割カットされるのではなく、戦っていただかないといけないので、そこは頑張してほしい。

委員：委員から貴重な意見があった。心配な点についての指摘であるので、ぜひしっかりと対応いただきたい。

委員：現図書館の除却費用 3.8 億円とある。前候補地のときはここも使うような話もあったと思うが、今回はもう全部なくすということか。

事務局：スターアイランド跡地で検討しているときに、この建物をどうするかという議論の中で、減築して一部使うというような案もあったが、費用面で難しいということがあり、除却するという市の考えを発言している。市の現在の公共施設のあり方にのっとり、この図書館を用途廃止した後に使いたいところがあるかを聞き取りし、使うところがなければ除却し、土地だけにする。その土地についても使う部署があればそこでの活用を検討し、活用のめどがなければ売却というような流れになる。

委員：先ほどの話のとおり、面積が減る可能性があるのであれば、今 7 階建ての計画が 5 階建てとかになった場合に、狭い図書館になってしまうのではないかと心配である。スターアイランド跡地で検討していたときより小さくなったり、現図書館も残らないとなると心配である。せめてここが何か活用できればと思った。

委員：今、中心市街地活性化で国から出る補助金があるが、全国いろんなところで手が上がりすぎて、従来の補助率よりだいぶ下がっている。予定していたより少ない額の補助となり、それでは困るため、結局面積を減らしている。

事務局：この面積については平成 30 年当時からずっと変わっていないので、減らすという話はこちらとしてはないという見込みでいる。この議員説明会の前に、総務委員会の中での議題として、新図書館等拠点施設整備の他にもう一つ、JR 駅前の大学の計画についても説明があり、そちらでも 250 億円という数字を出しており、我々の見込みとしては、こちらの面積を減らすという話はないと思っている。

また、補助金の話だが、静岡県立図書館や、四日市市も円弧デッキで補助割れがあり、議会でも、補助金が取れなかったらどうするのかという質問が出た。財政課の見通しでいくと、今の補助金の見込みとしては 10 億か 20 億円程度である。複合施設なので本当は最大 30 億円まで申請はできるのだが、図書館以外の施設整備では、上限の 10 億円を要求できるほどコストはかからないだろうから、10 から 20 億円と見込んでいるということであった。安全を見て低めに設定をしている。

委員：新しい図書館については、これからということなのでいろいろご心配な点もあろうかと思うが、指摘を踏まえてしっかり対応していただければと思う。

委員：次の図書館協議会では、もう決まっている、という状態か。

委員：図書館協議会の回数を増やすことはあるのか。

事務局：多めに開催できるように予算は取ってあるので、都合がつけば、皆様の意見を伺う機会を取らせていただければと思っている。ひとつの山場が、この補正予算が認められるかどうか、というところになってくるかとは思う。

委員：状況を見て、また回数を増やすことも検討いただければと思う。

以上